

「現代の若者に命の大切さをいかに教えるか」 ．．．．． 仏教の立場から．．．

浅田 恵真

(一) 年齢差による感覚の相違

福井県丸岡町の町おこしの一貫として『日本一短い母への手紙』を募集した。三万二千通の応募があったという。その中十点を「一筆啓上賞」に選んだ

①お母さん 雪のふる夜に私を生んで下さってありがとう。もうすぐ

雪です

五十一才 男性

②メシも食ってる 掃除もしてる カネもあるから心配するな 何か

起きたら電話する

十九才 男性

(二) 現代の若者の問い (どうして人を殺してはいけないのか)

①私が殺されるといやだから

②殺したい相手の人であっても、その人を愛している人がいるだろうから。

③法律で禁止されているから．．．

非常時は？

④緊急避難時はどうか ⑤戦争時はどうか ⑥死刑はどうか

平成十二年十一月の『文藝春秋』七十八巻十四号の特集に

「なぜ人を殺してはいけないのかと子供に聞かれたら」

十人ほどの著名人が執筆している。その中、瀬戸内寂聴さん

「仏教の第一番の戒律は不殺生戒だから人を殺してはいけない」

(三) 自死 (自殺) は是か非か

①人は生きる権利が誰にでもあるように死ぬ権利も自由にあると思います。ます。

②結局は個人の問題であって、どう死ぬかということも、どう生きるかの延長線上にあって他人に左右できる権利はないと思います

③自殺した人の意思が尊重されないのも釈然としない。つまり自殺を悪いことだと決め付けるのは間違っているというが自分の意見です。

④自殺をすることは自分の命を奪うことになりましたが、自分の命なの

だからどうしようと思いで自由だと思いで。人間いつかは死んでしまひます。それを自分の意志で早くなるかどうかだと思ひます。

◎これらの問題を「命」で考える学生は皆無

(四) 墮胎をどう考えるか

①今の自分の立場ではやっぱり産めないと思ひます。自分の親、相手の親も賛成はしてくれないと思ひますし、お互い学生ならそんな状況で立派に育て上げる事なんてできないと思ひますから。

②多分自分の保身を一番に考えてしまふんじゃないかと思ひます。だからきつと産めない。男子諸君が産ませる、産ませるって言っているのを聞くとちやんと考えているのかなあと疑問に思ひます。リアルに考えてますか。

③私の立場に置き換えるとするならば中絶はするでしょうね。だって私子供が好きではないですし、子供を育てるといふならば私自身が大人にならなければならぬでしょう。けれども、私まだまだ子供であるし、子供でいたいと思ひますから。ですから虐待をする親の気持ちがあるわかってるんです。

④前回の授業で先生が自分の立場におかれたとして考えなさいとおっしゃるまで、とても客観的に考えていました。子供への虐待が騒がれているためそんなことなら中絶すべしと。しかし自分に置き換えてみると考えは全く逆になり、今自分が妊娠しているとわかったならば誰がなんといおうとも産みたい、いや産みません。両親をはじめ多くの人に迷惑がかかるのは十分承知してはいますが、私は子供を心から愛して育てる自信があります。若いから産めないといふのは大きな理由にはならないと思ひます。考えの甘さや遊びから妊娠という結果を招いてしまふのは許せませんが、お互いが愛し合つて授かつた命はなにもにも代えがたいです。

◎やつと「命」で考える学生が出てきた

(他の学生は「命」は目に見えないから考えられないといふ)

(五) 地獄・極楽は？ (人を殺せば地獄に墮ちる)

極楽はあると思ひます。しかし地獄はないと思ひます。・・・なぜならば、自分

にとって極楽はあつてほしい。しかし地獄はあつてほしくないから。

(六) 仏教の説く世界・・・世間虚仮 唯仏是真

- 一、仏之教
- 二、仏即教
- 三、成仏教

「よろづのこと、みなもつて、そらごとたわごとまことあることなしに、ただ念仏のみぞまことにておわします」

(七) 無常に直面して・・・命の尊さに気づく

①ゼミ学生の自死・・・その追憶文より

一番辛かったのは彼のお母さんが亡骸を見送る姿でした。いとおしそ
うに彼の側を離れなかつたお母さん。私はふと自分の母のことを思い
出していました。私の母もこんなふうになるのかな、と自分の母と重
ねたりしていました。その姿は今でも目に焼き付いて離れません。お
葬式の後、家に着いてからの方がもつと悲しくなりました。母の顔を
見たら思いが込み上げてきて、ワンワン泣いてしまいました。式の様
子を話して、彼のお母さんの姿を話しているところで母が泣き出しま
した。しばらく2人が泣いた後ご飯を食べました。その日の夕飯は特
別な感じがしました。お葬式で見た彼はもう息をしていない。生きて
いない。でも私は生きている。そのことはとても不思議に感じました。
それからしばらく、ご飯を食べたり、お布団で眠ったりすることなど
日常では当たり前にしていることが生きている実感として幸せに感じ
られました。彼が亡くなったことよって生きているという幸せを改
めて感じます。なんて不謹慎なことでしょう。しかし、人の命が尊く
生きているというだけで、幸せだということが身にしみて感じられま
した。

②友人の交通事故・・・短大の卒業文集「飛翔」より

1. いまだに信じられません。彼の姿がもう見れないなんて。あの笑顔
が忘れられません。悲しいです。
 - ii 一緒に勉強してきたのに、もうすぐ一緒に卒業するのに、と考える
と人一人の命の尊さ（うやむや）というのを思わされました。

iii まことに残念に思うばかりです。改めて私はこの世の無常さを認識し、生かされている命に感謝します。

iv あまりにも早く死に急ぎましたね。生かされて生きるという気持ちをお大切に彼の分まで一生懸命がんばります。

v 生かされて生きるという気持ちをお大切に。

散る桜、身をもって示す仏かな。私に示してくれた最初で最後のたった一枚の写真から

vi 少しがに股でパーカーを着ている姿が印象的でした。お浄土でいつか会いましょう。

vii 彼のことをいつも思い出しています。ずっと忘れないと思います。

お浄土でまた会おうね。

◎ 「生かされて生きる」ここに二年間、仏教を学んだ成果がある

(八) 仏教学の立場から命の大切さを如何に教育するか

・・・「私のお世本懐」

仏教の目的は自らの成仏にある。人間に生まれ仏法を聴聞することによつて、自ら成仏への道を歩むことになる。それは取りも直さず生死からの解脱。命を粗末にすれば今生において解脱の道を自ら中断させる事になる。受けがたい人身を受け、聞きがたい仏法を聞き、成仏への道を歩ませて戴くからこそ、自らの命も他人の命も共に大切にしなければならぬことが知れる。このような教育が必ずしも為されているとは思えない。

(九) 殺人犯に命の大切さを教育・・・その後の展開

① 一昨年の出来事・・・京都拘置所からの連絡（受刑者三名の教育依頼を受ける）

② 法務教官が拙著「生かされて生きる・・・どうして人を殺してはいけないのか」を見ての依頼

③ どのような犯罪を犯したのか・・・八年前に舞鶴で少年たちのリンチ事件で戯れて殺人罪を犯した。

④ とまどい・・・大学生のゼミは机上の問題（大学生に命の大切さを教える教育）。受刑者への教育は現場の実践（正に現実的に命をどう考えるか）

・・・御門主が日本教誨師連盟の総裁に就任。そのお言葉に

「犯罪の場合、被害者とその家族や関係の方の処罰感情やお気持ちを考えねばなりません、その一方で様々な事情で罪を犯してしまった方の更正に関わることも仏教者として大切なことです」

⑤ 様子を見る為、京都拘置所を訪問・・・警護の厳しさ。七重の牢獄（暗証番号と指紋による幾重にも施錠）

Ⅱ 所長さんとの面談。（温厚な人柄にびっくり）

⑥ 受刑者三人のアンケートを拝見・・・

i、命の尊さをどう思うか・・・

○ 一番大切なのが命

○ 命は何ものにも代えがたい

○ 人の命に代わるものは何一つ無い

○ ダメなものはダメ」

ii、自分の行った事への反省・・・罪の意識をしっかりと持つ事。痛みや心の辛さを分かち合っていてあげていれば自分の中に基盤のよくなるものが出来て人を傷つけないはず。当時の自分はそういっただけで出来ていなかった。

iii、遺族への償い・・・出所して遺された遺族に謝りたい。

働いたお金の半分を遺族へ送る

⑦ 私の任務・・・文章内容が本心かどうか。心からの反省を命の大切さを通して毎週一時間で合計三回の面会にて教えて欲しい。

⑧ 今、自らが拘束されていることの自覚を促す為（自戒と他律）

「戒」 自分自身で自ら心を誠（戒）めるⅡ自分自身で悪を制御する心。

「律」 もしそれが出来ないのならばⅡ他者によって肉体を拘束することによって、反省を求める。

⑨ 命の尊さ・・・「ダメなものはダメ」の問題・・・何がダメで、何がダメで無いのか。

身Ⅱ殺人を犯す（実際に人を殺す）・・・ダメ

口Ⅱおまえを殺してやりたいと、口で言う・・・ダメとはいえない
無い

意Ⅱ心の中で殺したいと思う・・・ダメで無い

⑩ ある受刑者B君の感想

殺してやりたいと口に出すことと、心の中で思うことはどうなのか

私を感じたことは、口に出すことは人として慎むべきことだ

とおもいます。反面心の中で思うことは自由だと考えていたのですが、浅田先生が話された「身・口・意三業」という仏教の考え方を初めて聞き、自分の考え方とは全く違うこともかかわらず、スツと心に入り、またその考え方に深い関心を覚ええました。

身業・口業・意業 が共に行為であり、行動に移すことと同等以上に心で思うことも同じ行為という考え方は今までに感じたことのない感性であります。これを聞いて最初に感じたのは「そういう考え方・捉え方があるのかいうことでした。なぜこの考え方がスツと入って来たかといえば、今の自分自身に必要な不可欠なものと感じたからです。感情の高ぶりで行動に移してしまいう私には、この仏教の考えは、自分を変える現時点で大切な視点になるのではないかと思えます。

⑪ 「意」の大切さ〓こころを無くしてはダメ。心を亡くすと書いて「忙」
〓 「いそがしい」と読む。忙しいのは心を失っている証拠。

⑫ 人間の命とは「身〓肉体」のみか、それとも「身〓肉体。意〓心」とで命なのか。物（肉体）と心で全て・・・惣〓総

⑬ 命を取る〓肉体のみならず「心も取る」こと
⑭ 心（意）とは何か。

仏教では「唯識所変」という。私の外側（外境）は全て私の心が作り出したもの。何よりも大切なものは「心〓意」

笑ってみれば笑って返る、怒ってみれば怒って返す。ほんにこの世は心の影よ、泣くも笑うも吾しだい

（C君の意見）

意の部分、心は感情に近い感じる部分だと思えます。思いやりもそこからきます。もつと広く言えば、知識や意志などの働きの元となるものであつて、嘘偽りない本当の気持ちもあります。要は、思う前の感情であつたり、知識であつたり、気持ちが生まれてくるところがまとめて心（意業）です。人の基盤みたいなものだから、自戒や他律によつて善悪を学んでいかなくはいけなかなと思いました。

⑮ いつでも肉体と心は同一か、あるいは異なるか

同一 〓 生まれると同時に心が出来る。

死ぬと同時に心も亡くなる。

異 〓 生まれると同時に心が生じるのではなく、

死ぬと同時に心が滅するのでは無い

⑩ 三人共に「同一」・・・亡くなった人は生きている私達の心に思い出として残っている。

もし、そうならば何が極楽へ行くのか、何が地獄へ行くのか？

・・・・・・極楽・地獄という感覚がわからない。

⑪ A君が「今朝、起きて、本日はお爺さんの命日ということをお思い出した」

娑婆にいたところに、お爺さんのお墓参りに行ったことがあるかい。

「行った」・・・何にお参りしたの？ お爺さんの心じや無いか

肉体は亡くなって心（意）は残っているの！

（A君の感想）

唯識所変、全てのものは心が作り出したこと。心のあり様によつて言葉や行動に表れるので、心が一番大切だと思ひました。いつでも心穏やかでありたいと思ひます。自分の心に嘘をつかない生き方でありたいです。死後、からだはなくなつても心はなくならない、というのが印象的でした。お墓に参るのはその人の心に会いに行つているのですね。そう考えるようになつて頭の中がガラツと変わりました。自分の生きざまというか、生き方をすぐ考えるようになりました。大事ななのは心のありかた。浅田先生。ありがとうございました。

ここでタイムリミット。

（B君の感想）

今回で全三回の浅田先生の講義を終えて、まず第一にこの短い期間で大幅に視野が広がつたこと、そしてなにより新たな考えができたことに大きな意味がありました。

三回の講義でいくつものヒントがあり、身・口・意（三業）について学ばせていただいたことも、すべてが行きつく先として自分が犯した過ちにどう償えるのかということでした。

最後の講義で、口にした私の償いは、行動が先走つている、このことに對して、いかに後悔し、反省し、懺悔して心の底から被害者の方々に気持ちを傾けることが大切だということでした。自分に今、何が必要であり、更生することに、短い期間ながら気付くことができました。

（C君の感想）

心は大切だなどつくづく思ひました。自戒や他律によつてよき心を保たなくては自分のように自業自得になつてしまひます。・・・仕事をすると忙しい時が出てきます。忙の字は、心

をなくすとうまく書いたものです。今のうちがチャンスなので考えを深めようと思います。自分としては心と体があつての命という認識で、体がないときは魂という認識です。亡くなつて心が魂になるという考えが強いです。滅罪懺悔できるよう、己の心の中で身内以外の命でも大切に思えるよう、自戒・他律によつて高めて行きたいです。

三時間の教育を終わって

i、わずか三時間という中で彼らは積極的に学んだ。
ii、特に彼らは目に見える物の面だけを見て心を問題視していなかった。ところが心の問題に気づかせることが出来た事は大変な成果であつた。心に気づいたことは宗教に触れるチャンスを与えたことになるであらう。当然ながら仏道における命の大切さに気づくまでには時間的に余裕がなかったが、彼らにはそれを十分理解出来る素地は出来たと思われる。

iii、彼らは大変に素直さを持っていた。

・・・「さるべき業縁のもよおさば、いかなる振る舞いもすべし」という聖人の言葉が身に染んだ。それを考えれば「私と彼らとの立場が逆転していたかも知れない」とさえ思えた。

iv、その時に私の心の中から彼らを殺人犯と見る意識は消えていた。
v、最後に彼らに伝えた言葉・・・この獄中にて君たちが「人間に生まれて来た真の目的は何か」、それは人を殺める事では無かつたはず、これをしっかりと考え、この世に出てきた目的に対する考えを確立させて出て来なさい。

(十) 結論

命の大切さを如何に教えるかを様々に考えてきたが、詰まるところ、心を見つめ、自らの出世本懐に気づかせる事が出来れば自然と分かってくることといえよう。それには諸行無常を領納することも必要であらう。